

統合報告書 2023 を発行

当社（社長：中戸川 稔）は、この度、「統合報告書 2023」の日本語版を発行いたしました。

今年度から従来の「アニュアルレポート（統合報告書）」と「サステナビリティ報告書」を統合し、新たな「統合報告書」として発行しています。

統合報告書は、ステークホルダーの皆さまへ持続的な企業価値向上に向けた中長期戦略とサステナビリティ方針、およびその取り組みを紹介し、当社グループへの理解をより一層深めていただくための、財務情報と非財務情報を集約した報告書です。

今年度の報告書では、「中期経営計画 2025」の成長戦略やサステナビリティへの取り組みに向けたトップメッセージに加え、財務担当役員メッセージによる財務戦略とコーポレート・ガバナンス実効性向上に向けた取締役会議長メッセージを掲載しました。

その他、経営戦略のクローズアップとして人材戦略や DX 戦略を紹介しているほか、事業戦略では、各事業の市場環境や主な施策を説明しています。また非財務情報では、TCFD 提言に基づく開示を新たに加え、事業活動における気候変動対策および推進状況を紹介します。

今後も当社グループの中長期の成長性やサステナビリティへの考え方・取り組みを分かりやすくお伝えすべく、内容の充実に努めてまいります。

なお、サステナビリティに係る活動報告、数値データ等の詳細な情報については、後日発行予定の「古河機械金属グループ サステナビリティブック 2023」において開示を行います。



【統合報告書 2023】

PDF ダウンロードはこちら <https://www.furukawakk.co.jp/ir/library/annual.html>

■ 統合報告書 2023 の主な特長

1. 当社グループの各セグメント概要

各セグメントの強みや特長、主要製品、主な使用先などをグラフや表、イラストで分かりやすく図示。

2. トップメッセージ、財務担当取締役メッセージ

長期ビジョン「2025 年ビジョン」の最終フェーズである「中期経営計画 2025」の取り組み等について社長、財務担当取締役の想い、考えを掲載。

3. 事業戦略

事業部門の主な成果・課題に加え、「中期経営計画 2025」の具体的な成長戦略を記載。

4. トピックス「ロックドリル部門の進化する山岳トンネル工事関連製品」

トンネル工事関連製品の自動化・機械化による社会課題の解決事例を紹介。

5. 古河機械金属グループのサステナビリティ

2025年のあるべき姿とサステナビリティ推進体制、マテリアリティ（重要課題）の特定など、当社グループのサステナビリティへの取り組みについて掲載。

6. 当社グループのESG

ESGについての考えや取り組み、TCFD提言に基づく開示など、サステナビリティに係る責任者のメッセージとともに掲載。

※英語版は10月末頃発行予定。

【補足資料】 主なページ画像

古河機械金属グループの経営概況 2023年実績

2023年実績

項目	2023年実績	2022年実績	2021年実績
売上高	214,100億円	207,000億円	200,000億円
営業利益	10,500億円	10,000億円	9,500億円
経常利益	10,000億円	9,500億円	9,000億円
純利益	7,500億円	7,000億円	6,500億円
EPS	100円	95円	90円
ROA	3.5%	3.2%	3.0%
ROE	12.5%	12.0%	11.5%

2023年実績の主要な数値と、各部門の業績推移を示したグラフと表が掲載されています。

古河機械金属グループの価値創造プロセス

本グループは「顧客価値の創造」を目的として、製品・サービスの開発・生産・販売を通じて、社会課題の解決と持続可能な社会の実現に貢献しています。

価値創造のサイクルは「開発」「生産」「販売」の3つのフェーズに分かれています。

開発フェーズでは、顧客のニーズを把握し、最適な製品・サービスを開発します。生産フェーズでは、高品質・高効率な生産体制を整え、製品を供給します。販売フェーズでは、顧客に最適な提案を行い、価値を創造します。

このプロセスを通じて、顧客の課題を解決し、社会課題の解決に貢献しています。

トップメッセージ

2025年ビジョン「実現への加速」

2025年までの目標として、売上高250,000億円、営業利益15,000億円、純利益10,000億円を掲げています。

2022年実績を振り返る

2022年は、コロナ禍の影響を受けながらも、デジタル化の推進や新製品の開発により、業績を回復させました。

2023年実績を振り返る

2023年は、さらなるデジタル化の推進や新製品の開発により、業績をさらに回復させました。

財務担当者のメッセージ

本グループは、財務の健全性を確保し、株主価値の最大化を目指しています。

2023年の財務実績は、売上高214,100億円、営業利益10,500億円、純利益7,500億円です。

2024年の目標として、売上高220,000億円、営業利益11,000億円、純利益8,000億円を掲げています。

財務の健全性を確保し、株主価値の最大化を目指します。

Close-up 人材戦略

社員の心と力を最大限に発揮して、新たな価値を創造することが、我々の使命です。

人材戦略の重点は、人材の育成と確保にあります。

2023年の実績として、従業員数10,000名、人材育成費100億円を投入しました。

2024年の目標として、従業員数11,000名、人材育成費110億円を掲げています。

Close-up DX戦略

当グループの成長戦略と経営改革を推進する上で、デジタル化の推進は不可欠です。

DX戦略の重点は、デジタル化の推進と経営改革の推進にあります。

2023年の実績として、デジタル化率80%、経営改革費100億円を投入しました。

2024年の目標として、デジタル化率90%、経営改革費110億円を掲げています。

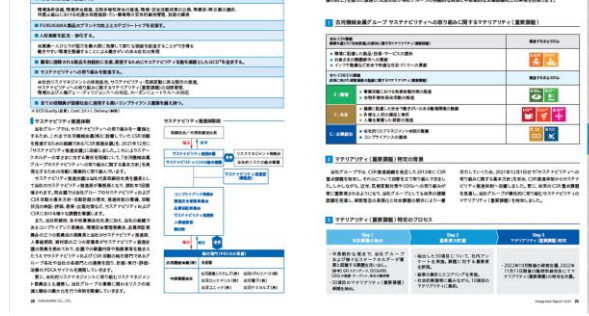
古河機械金属グループのサステナビリティ

2023年3月1日現在

サステナビリティ（重要課題）の概要

本グループは、2023年3月1日現在、以下の5つの重要課題を特定し、これらに取り組むことで、持続可能な成長を実現することを目指しています。

- 1. 環境
- 2. 社会
- 3. 経済
- 4. 人材
- 5. コンプライアンス

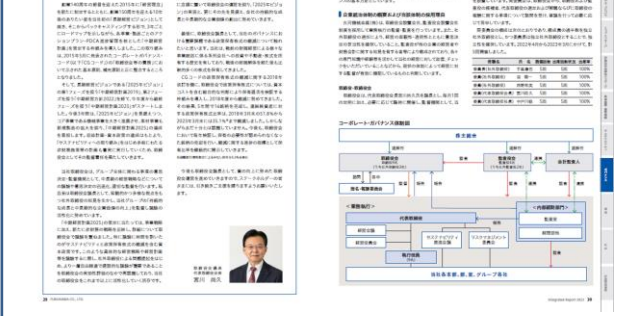


この図表は、5つの重要課題（環境、社会、経済、人材、コンプライアンス）が相互に関連し、持続可能な成長を促進する構造を示しています。各課題は、具体的な目標と取り組みを通じて、グループ全体の価値向上に貢献しています。

6. ボタン

6.1 ボタン

ボタンの製造は、高度な技術と精密な加工を必要とする重要な産業です。本グループは、最新の製造技術と設備を導入し、高品質なボタンの生産に取り組んでいます。



この図表は、ボタンの製造プロセスを詳細に示しています。材料の選定から加工、組み立てまでの各工程が厳密に管理され、最終的に高品質な製品が提供されています。

6.2 ボタン

6.2.1 ボタン

ボタンの製造は、高度な技術と精密な加工を必要とする重要な産業です。本グループは、最新の製造技術と設備を導入し、高品質なボタンの生産に取り組んでいます。




この図表は、ボタンの製造プロセスを詳細に示しています。材料の選定から加工、組み立てまでの各工程が厳密に管理され、最終的に高品質な製品が提供されています。

6.3 ボタン

6.3.1 ボタン

ボタンの製造は、高度な技術と精密な加工を必要とする重要な産業です。本グループは、最新の製造技術と設備を導入し、高品質なボタンの生産に取り組んでいます。



この図表は、ボタンの製造プロセスを詳細に示しています。材料の選定から加工、組み立てまでの各工程が厳密に管理され、最終的に高品質な製品が提供されています。

【補足資料】

■ 会社概要

【古河機械金属株式会社】（東京証券取引所プライム市場 証券コード 5715）

本社所在地：東京都千代田区大手町二丁目6番4号（常盤橋タワー）

代表取締役社長：中戸川 稔

事業内容：鉱山開発で培った技術を受け継ぎ、現在では機械事業3部門（産業機械部門、ロックドリル部門、ユニック部門）と素材事業3部門（金属部門、電子部門、化成品部門）を展開しています。

創業：1875（明治8）年8月

設立：1918（大正7）年4月

資本金：282億818万円

従業員数：〈連結〉2,831人 〈単独〉208人 [2023年3月31日現在]

WEBサイト：<https://www.furukawakk.co.jp/>